

# 地元屋号学習と子どもによるゆいまーる家庭訪問 (ハロウィン編)

老人会活動が休止中の地域で、積極的に沖縄の屋号文化の継承を通して子ども会が関わっています。屋号と高齢者を覚え、双方が思いを寄せるハロウィンを軸に交流促進効果や地域資源開発意欲に繋がっています



沖縄県恩納村・太田区自治会

ヤンナー  
屋号 とは…

明治以前の沖縄では苗字ではなく屋号で家を表すことが一般的でした。同じ名前の多い沖縄では個人を指定する場合、苗字では役に立たないこともあり、その不便さをカバーするために屋号が使われています。現在でも新聞の訃報(お悔み)欄や墓前にも記載されることもあります。

屋号は単に苗字からだけで付けられるのではなく、その家の位置や方位、戸主の職業、本家か分家か、あるいは兄弟の中の何番目であるのかなどの様々な事柄に因ってつけられており、かなりユニークで珍しいものもあります。

沖縄県の高齢者は、27年間の米軍統治下(アメリカ世)の影響を受け戦後の大きな変化を乗り越えて地域生活を営んできました。

そんな「**チャンプルー文化**」の中で…

子ども会会長のある提案がきっかけでした…

地域のオジオバアを巻き込んで子ども達に伝統的な風習(屋号を学んでもらい、そこで生活している高齢者の見守りができるような行事を活用して世代交流の機会を作ろう!



子ども会  
眞会長

ハロウィン交流  
実施までの流れ



高齢者宅事前訪問  
協力可能か確認  
各児童へ仮装依頼  
(役員側)

(前日)  
協力者宅にランタン  
設置とお菓子を配布

(当日)子ども達に  
屋号巡回ルート説明  
高齢者所在確認

役員手作りの屋号マップを配布



子ども会総勢70名で出発



Trick or Treat  
お菓子ください!

オジも変身  
してみましたよ!

どの家の  
孫かね〜!

イベント効果と  
地域の変化

登下校時に互いに  
笑顔で挨拶を交わ  
すことが増えた

子どもから企画提案  
し、積極的に高齢者  
を招待する交流が  
増えた

独居高齢者宅へも  
子育て世代の方々が  
生活支援に協力  
するようになった

移動支援が必要な  
方を対象に公民館  
側で「買い物支援バ  
ス」を定期運航する  
ようになった

これも  
美味しいよ!

今年も可愛い  
子達が来たねっ

僕のもある?

ありがとうございます!

助け合い活動の創出

④ 地縁の助け合い・交流